



発行責任者 幹事長 檜森元元

〒141-0032

東京都品川区大崎5丁目7番14号

五反田ロイヤルハイツ105号

檜森行政書士事務所内

関東青雲同窓会事務局

Tel. 03-3491-1765

Fax. 03-3491-2087

kantou-seiun@at.wakwak.com

関東せいりん

「絆」

会長 新山 春一
(東高11回生)

同窓会の会員の皆様におかれましては、お健やかで活躍のこととお慶び申し上げます。平素は、同窓会の活動に当たりまして、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

去年は、東日本大震災に端を発し、原発事故、放射能汚染、超円高、欧州危機、市民運動による指導者の交代、景気の低迷、停滞、タイの洪水、TPP問題、消費税問題等、多事多難の年でした。

このような中、関東青雲同窓会の活動は、毎年50歳を迎えた年に幹事をお願いしており、途切れることなく、昭和55年卒業の30期生に昨年の6月よりお願いし、準備等に多くの同期が集まっていることは嬉しい限りです。

しかし、当会におきましては、改善、解決していかなければならない問題点が多々あります。特に年会費納入者の長期減少傾向には歯止めがかからず、ピーク時の半分以下になっており、危機的な状況にあります。また、高校の統合（東高校と北高校）はしましたが、同窓会は統合せず、

函館市立高校は柳屋同窓会を設立しています。当会の規約で入会できるようにしたものの、4年を経過しても、現在まで皆無の状況です。函館市立高校との同窓会の統合については諸問題があり、一昨年より函館本部と各支部長が会合を重ねていますが、本部会長の交代もあり、残念な結果に終わっています。5月までに函館本部の新会長の方針が判明するので、当支部も役員会で検討して解決すべく頑張ります。

次に、会員相互間のコミュニケーションと活性化を図っていると推されるホームページも、管理人の多忙等から以前の勢いが無くなっています。そのため、役員4名で委員会を立ち上げ、充実を図るようお願いしています。

去年は、名簿の整理、諸規定の見直しを行い、役員構成も29期村田氏を副会長、同じく大山氏を会計幹事に入れ、また、幹事期幹事長も役員に入れるなど、若返りをはかりました。函館本部の会長も28期生の寺西氏のため、今後は活動しやすいのではないかと思います。さらに、32

期以降の期の同窓会加入依頼も、年齢が近いのでお願いしやすいと思っています。

「同窓」とは、母校を同じくするもの同士のコミュニケーションによって成り立っています。関東地区において、青雲の志を共有する先輩、後輩が連帯して絆を深め、強固な会になるよう、役員一同頑張ります。皆様のご指導、御協力の程をお願いいたします。



当院50周年の年に ソフトボールチームの飛躍を



名誉会長 中村 隆俊
(市中2回生)

関東青雲同窓会々員の皆様には、日頃からあたたかいご理解とご協力を賜り、誠に有り難うございます。また、会報「関東せいうん」の第10号が、4年振りに発行されるに際し、関係者の皆様にご感謝申し上げます。

昨年は、3月11日に東北地方太平洋沖地震が発生し、多くの方が被災されました。また、今も尚、以前の生活に戻れないでいる方がたくさんいらっしゃいます。心よりお見舞い申し上げます。関東青雲同窓会々員の皆様におかれましては、ご家族、ご親族の皆様はご無事でしたでしょうか。その後に実施された計画停電や、原発事故の影響なども重なり、事業運営には何かとご苦勞が多かったことと存じます。

当院では、地震発生の日、入院患者の皆様を即座に駐車場に運び出して避難させました。またガスが停止したため、入院患者の食事は非常食で対応しました。幸い停電はなく、当日行われていた移植手術も無事終了することができ、大きな困難には見舞われず胸を撫で下ろしました。患者の生命の安全確保を最優先し、職員たちが迅速且つ冷静に対応しました。日頃から重視している危機管理の大切さを試された日であったと言えるでしょう。



私の故郷で存分に力を発揮しなさいと、選手たちを激励

さて、戸田中央総合病院女子ソフトボールチームは、一昨年9月、函館において開催されたリーグ戦に出場しました。2つの強豪チームに競り勝ち、連勝することができました。これもひとえに皆様から熱い声援をいただきました賜物と感謝しております。私の故郷である函館の地におい



試合前に、観客席に手を振る中村名誉会長

て見事な勝利を納めることができたことは、感無量の思いであります。しかし、その後、当チームは苦戦を強いられ、残念ながら2部リーグに降格してしまいましたが、昨年リベンジに挑戦し、再び1部リーグに復帰を果たしました。

今年は当院も開院50周年を迎えます。そして、ソフトボールチームの1部昇格と合わせて記念すべき年になりました。再び函館のグラウンドで皆さんと会えることを楽しみにしているところです。今年は6月2日と3日です。また函館で会いましょう。



勝利を獲得し笑顔で東京、函館からの応援者たちと

「関東青雲」 解消か改称か



顧問 朝倉 敏夫
(東高10回生)

少々どぎついタイトルだが、実を言えば、もっと大きく『「青雲同窓会」 解消か改称か』としたかったくらいなのだ。

言うまでもなく、関東青雲同窓会は函館に本部を置く青雲同窓会あつての関東支部だが、その青雲同窓会そのものが現在、なにやら奇妙な宙ぶらりんの存在になっていることを、みなさんに直視してもらいたい、直視した上で、どうすればいいのか、みんなで知恵を出し合ってもらいたい、というのが真意である。

おそらく、会員の多くは、漠と、東高校が市立函館高校(現役生徒たちはイチカン高校と略称していると聞くので、以下、市函高)になっても、同じ場所、同じ校舎なのだから、同窓会も繋がっているというイメージをもっているのではないだろうか。

そうではない。

市函高には独自の同窓会・柳星同窓会がある。卒業生は、もはや青雲同窓会とは無関係である。現在の青雲同窓会は、新卒加入会員の無い、いずれ「解消」、消滅の運命にある宙に浮いた存在ということになる。従って、支部たる関東青雲の未来も途切れているのだ。

こんなことになっているのは、東高と北高が統合されても、それぞれの同窓会は統合されなかったからである。

東高最後の校長であり市函高初代校長だった森武先生が、関東青雲 25 周年記念誌に書いている。『「青雲魂」「青雲の志」という言葉を市立函館高校では合言葉にすることはできません』と。当然だろう。市函高としては、二つの前身高校、双方の顔を立てなくてはならない。結果としての柳星同窓会の設立は、苦渋の選択だった。

同窓会も統合への途はあつたはずである。東高、北高の統合は何年も前から決まっていたことであるし、市函高が発足してからも、もう 5 年になる。要は、東、北とも互い

の事情、想いなどと言いつつ、統合への努力、熱意、真剣度が足りなかったのだ。

私個人としては、青雲同窓会をそっくり柳星同窓会に吸収してもらおうくらいの発想転換をして取り組まなくては、無為・惰性的に放置されてきたしこりをほぐせないだろうと思っている。「解消か改称か」というのは、そういう含みである。

青雲同窓会函館本部の役員が大きく若返った。寺西隆経会長は 28 期である。市函高同窓会との連続性構築に意欲的と聞く。

他方、関東青雲の幹事期は代々 50 歳で、今年は 30 期生である。

同窓会の活性化、未来構築は、智力・体力ともまだ現状突破のエネルギーに溢れているこうした年代層が、単なる総会幹事という一過性の役割を担うだけでなく、同窓会運営全体の中心であるべきだろう。

そして慣例やら前例やらを軽々と乗り越えられるはずの世代同士が各地強力に連携し、同窓会の立ち枯れ回避につながる新たな態勢を創設してもらいたい。



初代校長・岡村威儀先生の碑

同窓会へのあふるる想いを胸に…



本部長 寺西 隆経
(東高28回生)

そよ風が心地よく頬に伝わる素敵な季節を迎えましたが、関東青雲同窓会の皆様にはますますご清栄でご活躍のことと存じ上げます。

この度は、会報「関東せいうん」第10号の発行おめでとうございます。また、本号に執筆の機会を与えていただきましたこと、感謝申し上げます。

私は、平成23年8月14日の本部総会で会長を仰せつかりました。今日でも私なんぞが本部の会長をお引き受けしているものなのか…自問自答に耽る日々を送っております。



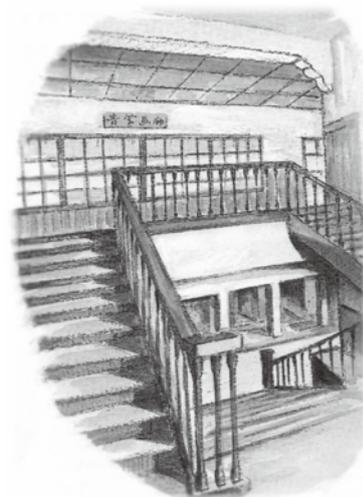
同窓会への思い入れが強くなったのは、今から約10年前。本部の総会幹事は45歳と決まっていた、その前年から幹事長を任命されたのがきっかけとなりました。まずは同期のメンバーを出来るだけ多く当日までに集めようというプロジェクトを仕組み、当時10クラスの各クラス幹事男女で20名のチーム作りから始めました。約1年間、月に1~2回ミーティングを行い、同期のメンバーや先輩後輩、そして過去にさかのぼっての青雲同窓会の歴史に触れていくにつれ、重みや深さや感慨深さを身に染みて想う様になった自分がそこに居りました。当日の本部総会にはクラス幹事全員の苦労が実り、幹事年同期のメンバーが110名余り参加し、懇親会も滞りなく終了した後の打ち上げで感激の盃を交わしたのがつい先日のごとく感じます。

話はさかのぼりますが、私が東高校を選んだのは大変不埒な理由でした。潮見中3年生の春、陸上の中体連の時に、当時東高陸上部の顧問をしていた小川智博先生が、キャプテンの花田先輩、マネージャーの坂口さんを従え、

「東高に来て陸上部で頑張ってみないか?」と勧誘に来たのがきっかけです。しかし、実は小川先生のお言葉ではなく、とって美人なマネージャーの坂口さんに心を奪われ、在校している東高陸上部目指して出来損ないの頭を振り絞り、合格までたどり着いたのです。

もうひとつの入学の動機は「自由な校風への憧れ」でした。当時近所にいた東高の先輩に、制服や髪型はほぼ自由、ユニークで楽しいあんどん行列のある青雲祭、マラソン大会や球技大会などなど楽しいスポーツ行事もたくさんあると聞かされ、一気に自分は東高に行くものだと決めたのです。憧れの高校に入学出来、希望どおり美人マネージャーの下で練習が出来るとワクワクしていたのも束の間、なんとそのマネージャーにはしっかり決まった彼氏が…。その辛い事実が功を奏したのか、3年連続でインターハイへ出場、3年生の時には岡山インターハイで当時の800m北海道高校記録を樹立することが出来、以後の大学から実業団まで陸上競技中心の生活を送ることになりました。

7年前から本部の同窓会役員に在籍させていただいておりますが、日頃から関東青雲同窓会の活発な活動に敬意と尊敬の念を抱いております。さらに、「関東せいうん」の発行は、平成2年の創刊号以来、今回の10号まで22年間で着実にアーカイブとなる発刊をされております。今後ますます、中村隆俊名誉会長そして新山会長をはじめ、役員の皆様の同窓会へのあふるる想いを胸に…のパワーを本部へお伝えいただき、お力添えの程宜しくお願い申し上げます。



飲んでベエ幹事長です



幹事長 檜森 元元
(東高16回生)

会報10号の発刊に際し、皆様に感謝いたします。

最近周囲に身体の不調を訴えたところ、仲間に「2、3日酒をやめたら治るよ」と言われた。素直に実行したところ、確かに元どおりになった。何かの言葉で「惟酒無量不及乱」とあったが、「惟だ酒は量なし、乱に及ばず」と読むらしい。私は「タダ酒はいくらでも飲み、自分で支払う酒は静かにする」くらいに捉えている。楽観主義の極みと友人から言われるのも仕方のないことか。

私が幹事長になったいきさつは、前幹事長である田村氏(東高17回生)のピンチヒッターだった。田村氏はすぐに戻るものと思ひ、この大役を引き受けた。田村氏の一日も早い回復を願っている。

現在の関東青雲同窓会は、後輩への引き継ぎについて

苦慮している。少なくとも、将来に対する見直しや、直近に抱える大きな問題を含んでの引継ぎはできない。後輩が安心して継承できる環境を早く作りたい。また、当会は早い時期から、北高や函館高校の卒業生に窓を開いていることも事実だ。それを当会の総会で評価しながら、本部前役員で何年も放置していた人もいた。未だに本部会則が手つかずの状態であることに不満を感じる。本部会長が新しく就任され、人望、識見があり期待できる人物と聞いている。今後の函館本部に期待だ。

さて、当会は…というと、当然、将来見込める新会員は少ない。この現状を打破し、会の活気を取り戻す施策について若い会員と話し合っている。良き環境の下で、引き継ぐ日を楽しみにしている。今日も美味しい酒を飲みながら。

同窓会と私



副会長 村田 学
(東高29回生・理数科9回生)

私にとって同窓会自体、籍を置き、部長も務めた弓道部OB会でも数回出席できた程度で、函館での青雲同窓会にいたっては全く疎遠な状況でした。そんな中、同期の仲間と数年振りに会った際に、関東青雲同窓会の存在と活動、我々29回生が幹事期であることを知りました。右も左も分からない中、いろいろな機会での会話を通じて諸先輩方の苦勞を知り、教えを活かしながら何とか無事に幹事期を終えることができました。

去年は、心痛む震災もありましたが、どんな時でも総会で襁を渡すことが、これまでの「伝統」を次の代に託す純粋な「想い」であることを実感した1年でもありました。この度、副会長職を拝命したことで、情報発信や同窓会相互のコミュニケーション手段のあり方など、今後の世代との

パイプ役になればと考えています。至らない点も多々あるかと思いますが宜しくお願いいたします。

先日、ある物を見つけました。それは、平成9年7月1日発行「理数科の軌跡」という冊子です。平成9年か10年に行われた函館でのクラス会で編集に携わった同級生から配布されました。21回生の理数科1回生から数え、平成9年3月で幕を閉じることになった理数科の軌跡が記述されています。折に触れ、同窓会のホームページなどでもご紹介したいと思います。



第27回総会を振り返って



前幹事期代表 村山 雄一
(東高29回生)

「関東せいうん」第10号の発行、おめでとうございます。発行に携わった皆様のご努力に感謝いたします。

私が関東青雲同窓会に参加し始めたのは10年ほど前です。在校時部活の先輩だった千歳副幹事長から声を掛けられたのがきっかけです。初参加は同期などいるはずもなく、一番の若手でした。それでも先輩たちがこのように集まっていることが新鮮で、楽しく感じられたことを覚えています。

その後、年1、2回は参加しておりましたが、徐々に幹事期が迫ってきます。上の世代は、毎回多数のメンバーを揃えて盛り上がっています。その中で、同じクラブ活動の同期である飛田さんを誘い1名。さらに大山君を誘い2名。しかし“このままでは、幹事期を乗り切れない”という危機感を抱いていたところ、6年前に東京で理数科同期が10名ほど集まった時、中心になった村田君を思い出しました。新山会長、檜森幹事長に会っていただき、幹事期活動が始まりました。

「納涼会」は村田君の関係で「日立目白クラブ」が会場に決定。昭和初期に建てられた日本におけるアールデコ様式の代表的建築物の一つで、学習院の寮としても使われていた由緒あるものです。特に内装の絢爛さに感動された方も多かったようです。



同期の仲間と二次会へ

「新年会」は、大山君が今までにない場所、東京スカイツリーなどで注目のスポットになっている浅草を提案。上野精養軒との連携も可能で、これならいけると決定しました。当日は、新年の浅草をイメージし、幹事期の二人は和服で艶やかさを演出しました。また、“幹事期のタスキ”を新調していただき、披露することもできました。終了後は、昭和の匂いを残す浅草を堪能した方も多かったようです。

いよいよ最後は総会です。同期であれこれ候補をあげ、まずは下見ツアーです。新山会長にも参加していただき、楽しい思い出になりました。下見の結果、会場は日暮里のホテルラングウッドに内定しましたが、そのタイミングで3月11日の「東日本大震災」です。日本中が自粛ムードになり、開催が未定の状態となりました。26回の歴史で遂に総会中止となるのか。会長他役員の方々が幾度も協議を重ね、開催が決定したのは4月中旬でした。例年に比べ準備期間が短く、そのため休みの日も事務局で作業を行いました。しかし、それぞれが時間をつくり“できる事を”“できる人が”“できる時に”行ったことで、仲の良い団結力のある期になれたと思います。

今思うことは、幹事期は50歳に定められた義務ではなく、新たな人の輪を広げ、仕事や趣味とは違う世界を感じ、勉強させていただける絶好の機会だということです。幹事

期で初めて参加した同期にとっても、ふるさと函館から遠く離れた東京で、まさかこの歳で集い合えるなど誰が思ったでしょうか。離れてみてわかる故郷の良さ、母校の素晴らしさ、同窓の暖かさを感じる事ができたと思います。

中村名誉会長をはじめ多くの先輩たちの努力の結晶を、後輩たちに残せるようにこれからも同窓会を盛り上げていきたいと思っています。

函館東高校、万歳!

関東青雲同窓会、万歳!

3つの力



幹事期代表 横井 透
(東高30回生)

平成19年、ちょうど年度替わりの頃だったと記憶しています。札幌に在住している柏野小学校時代の恩師から、一通のメールが届きました。その内容は、東京地区に「関東青雲同窓会」という組織があり、毎年50歳になる期が当番幹事として運営にあたるので、協力してあげて欲しいというもの。その恩師は、何を隠そう東高11回生の大先輩でもあります。メールの結びには、「同期の新山が会長なので、連絡するように」と事務局の連絡先が記してありました。小学校の頃から素直で、先生の言うことをよく聞いていた私は、46歳であってもその素直さは少しも変わらず、「わかりました。ハイ、先生!」と思わず元気に返事をしていたのかもしれませんが。当時の事務局宛にメールを送信したのは、それから数日経ったことでした。それからすぐに新山会長から電話をいただきました。直近で同窓会の総会が予定されているそうで、間もなく届いた案内状に同封されていたハガキを「出席」で投函。5月には何もわからないまま、会場である中野サンプラザに向かったのが、私の関東青雲デビューになったのです。

「50歳が幹事期」と簡単に言うものの、サラリーマンをしている人なら大半が管理職。人によっては、子供の大学受験や結婚を控えている場合も十分考えられる年齢です。つまり、人生の中で最もと言って良いくらい時間的密度の濃い時期に、その濃さをさらに増す役割が巡ってくるということです。初参加の総会は、当時の幹事期である25回生の先輩、次期26回生の先輩と同じテーブルでしたが、そこで皆さんが仰っていたのは、人数を増やして運営することの重要さ、特に女性陣の参加が鍵になると口を揃えていました。

我が30回生は、「FreeML」という同期だけのメーリングリストで、365日コミュニケーションをとっています。在校時の生徒数は、10クラス約440名でしたが、30年以上が経過した今、函館、札幌、関東、その他合わせて、既に100名を超える旧友がここに参加しているのです。幹事期の人集めに向けて、この「FreeML」が大きな力を発揮してくれました。短期間で輪が広がり、関東在住のメンバーが日ごとに増えていくことになりました。そうして迎えた昨年5月の総会では16名が壇上に上がり、前幹事期の先輩から確かに襷を引き継がせていただきました。昨年8月、そして今年の2月と、それぞれ納涼会、新年会の幹事期運営を行うにあたり、“記憶に残る会”をコンセプトに、3つの力で臨んでまいりました。それは、30回生の「行動力」「創造力」「結束力」です。これらの力は、自分たちが楽しむこと、人を楽しませることの両方を忘れずに取り組む気持ちから生まれるものだと思います。まさに、東高時代に養われた力なのかもしれません。来る5月の総会でも、皆様の記憶に新たな1ページを加えていただける会を目指してまいります。



結束の日 2011年2月26日

納涼会を振り返って

幹事期 中川 孝子
(東高30回生)

懐かしい函館の風景にホロリ

私たち30回生が幹事となった初の仕事。それが、昨年8月27日(土)、霞が関ビルの東海大学校友会館にて行われた納涼会でした。納涼会は5月の総会に向けた練習…と言われたものの、これまで多くの先輩たちが取り仕切ってきた会として、決して手を抜くわけにはいかない。「どうせやるなら、今までになかったもの、楽しく喜んでもらえる企画を取り入れたい」そんな「Y」の言葉で、私たちの青雲魂に火が付いたのです。

30回生は、納涼会に向けてという訳ではなく、実はかなり前から活動を始めていました。その基本は何と言っても人集め。一人でも多くの同期が集まれば、自ずと道は開けるはず。まるでデジタル社会からアナログへと逆戻りしたかのように、往復はがきや電話作戦で参加を呼び掛け、2月下旬に関東地区在住の30回生同期会を開催するに至りました。まだ風が冷たい新橋の夜に26名が集い、その後、次から次へと輪が広がり新たな同期が、今も尚増殖中です。しかも、その顔ぶれは実に多彩で、技術・特技・才能・人脈・個性を持ったメンバーばかり。期待通り、道は開けました。

納涼会における新たな企画、今までになかったサプライズは何だろう。アイデアを出し合う中でひらめいたのが、「夏＝うちわ」の製作でした。同期でプロの漫画家である「H」の協力をあおぎ、描かれた絵では、名誉会長と会長が「翔べ、青雲魂」と言わんばかりのバンジージャンプを試みています。話題の東京スカイツリー、新しくなった五稜郭タワー、あり得ないコラボレーションです。

サプライズはそれだけにとどまりません。市立中学～市立高校～東高校へと変遷した母校の懐かしい写真を編集し、さらに故郷の街並をふんだんに取り入れた



大好評!せいうん団扇



自主編集映像の上映を行いました。撮りためていた写真に加え、卒業アルバムや50年史からの抜粋、さらに、函館在住の同期生たちに現地での撮影を依頼するなど、短期間の製作でしたが中身の濃いものに仕上がったと思います



無事終了!後片付けの前に幹事期だけでパチリ!

す。ここでも、「M」の技術が活かされました。

納涼会当日は、司会・会計・受付・誘導・案内など、参加した30回生が持ち場を分担して運営にあたり、会を盛り上げました。会の無事終了は、安堵感が漂うと同時に妙なハイテンションを感じていたことも事実です。それは、諸先輩からいただいた数々の温かいお言葉から、私たちの思いが伝わったと実感できたからなのかもしれません。

30年ぶりに集まり、高校時代とは違った力を結集して納涼会という一つの行事をこなし、さらに新年会・総会へと充実度を高めていく旧友たち。ともすれば、同窓会の幹事なんて面倒だと敬遠してしまいましたが、私は、一歩踏み出して納涼会に関わられたことを嬉しく思っています。

新年会を終えて

幹事期 古川 清志
(東高30回生)



毎年1月下旬に行われる新年会だが、今年は立春の開催になった。新年会と呼ぶには少々遅いような気もするが、旧正月と考えれば許されるだろう。

昨年新年会では、我々30回生も相当数の人数を集めて参加し、次年度の幹事役を誓い合った。多くの卒業生がそうであるように、我々も関東青雲同窓会に参加することなど無縁だったと言っても良い。なぜなら、知っている人は誰もいないし、自分たちよりも年齢が上の方々だけで盛り上がっている会だと思っていたからだ。そんな中、50歳でこの会の幹事をやらなければならないという連絡



二度目の大役を終えて。会長を囲み、次期幹事期と共に記念撮影。

が入ってきた。「なにそれ？」が本音である。そもそも我々30回生は、私が記憶する限り東京で同期会なるものを開催したことすらないのだ。まして私に至っては、卒業後は仲の良い友人と年に1度会うかどうか、ともすれば年賀状のやりとりが関の山である。いきなり幹事と言われも、他人事のように構えてしまうのは仕方のないことだった。とはいえ大役をこなすために、関東在住の旧友を一人でも多く探し出し、連絡を取り合わなければならない。頼りにならない古い名簿も頼りにしながら、どうにか旧友と連絡を取り合うことができた。そして、昨年の新年会から丁度ひと月後の2月下旬、卒業後初の同期会を開催し、幹事期遂行を誓い合った。3年間苦学を共にしてきた仲間との再会

市中の校歌は我々に任せろ！



では、30年の歳月を超越した思い出話に花が咲き、その日は長い夜となったことを思い出す。

初仕事は8月の納涼会。20人を超える同期を集めて、無い知恵を絞って運営にあたった。そして迎えた新年会。場所は渋谷エクセルホテル東急。コストパフォーマンスを追求し、諸先輩の皆様をはじめとする参加者全員に満足してもらうことを念頭に採った会場だ。納涼会で好評だった

皆に配る記念品についても打ち合わせを重ねた。市中、市高、東高の校章と、故郷函館のシンボルとも言える五稜郭を一緒にデザインしたオリジナル手拭い。鉢巻にして頭に巻くのもいいだろう、料理をする際に使うのもありだろう。サプライズな記念品の他に、もう一つ我々が幹事として慣習を変えたのが抽選会の進行だ。アナログのくじ引きスタイルから、ご列席の方々の名前を事前にパソコンに入力し、抽選ソフトを使ったデジタルくじ引き方法への転換だ。番号で当選者を選ぶだけでは、お名前が分からない。当選された方のお名前がスクリーンに登場し、しかも卒業期が分かるだけでも先輩後輩の距離が近くなったように思えるのではないかと参加する

人が皆一つのことに集中してこそ同窓会。システムの不手際で、複数回名前が表示された人も出たのもちょっとした愛嬌か。しかし、変化を求め、チャレンジしていくことの意味を理解してもらいたい。それが、30回生の基本的スタンスであるからだ。

中村名誉会長が欠席されたことは残念だったが、函館から寺西本部長が駆けつけてくれたことは、この新年会に華を添えてくれた。新たな試みを模索しながら、カタチにしていって新年会。納涼会同様、完成途上なのかもしれないが、その充実度には満足している。次は総会だ。今回の失敗や反省点を軌道修正して総会に取り組むと共に、次期幹事のために少しでも役に立てればと思っている。

11回生東京支部会30周年



新山 春一
(東高11回生)

昭和57年5月29日、新宿に10数名が集まって立ち上げた、36(11回生)会／東京会は、回を重ね、昨年12月5日で30回目を迎えました。当初は同期の福田瑞穂君が料理長



東京36会30回記念 2011年12月3日

として勤務していた麻布グリーン会館を会場に、函館からの参加者を含めて35名前後が出席、二次会も同期の新井欽三君が経営の麻布十番の店「はじめ」で遅くまで楽しんでいました。その後、10年位前から毎年会場を変え、最近では年齢を考えて昼間の開催にしました。毎回30名前後ですが、最近では女性の参加が多くなりました。

昨年は、26名の参加でしたが、今年は古稀を迎える年ということもあり、36会の語呂合わせで36周年まで継続することを約束し、日帰りの旅、ランチ会などの企画をして、また会えることを楽しみに終了しました。

今後は皆様の協力の下、出来るだけ多くの同期が出席出来るように皆で声がけて会を盛り上げたいと思っています。

「東京16会」は今年も元気!!



昭和41年卒業後、進学や就職で上京し、数年後には16回生の集会が始まった。新宿、渋谷、広尾の香港ガーデン、外神田のキプロスなどで顔を合わせ、既に40数年が経過した。我々は、昭和22年生まれが中心で、いわゆる団塊世代の代表的年代である。同世代が人口多数の輩なので、さぞかし蹴落や足の引っ張り合いの性格と思われがちなのであるが、全くその逆で、他人を思い、他人の痛み、哀しみを理解し、仲間を助け合い、後輩を大事にするという、今まさに言われている「絆」そのままである。いつまでも仲良く、毎回の本会行事にも5～10名が必ず出席している。当初は、同期の厚谷君たちがとりまとめてくれたおかげで、現在も脈々と受け継がれている。一昨年「東京16(イチロク)会」と



檜森 元
(東高16回生)

称することにして「会旗」を作製した。その後何かと理由をつけては「会旗」を持ち出し「飲み会」を行う楽しい会である。今後も、多くの同期生が本会の総会に出席するよう呼びかけ、本会に貢献できるよう活動を進めていく。



東京16会 2010年6月12日

初の開催、函館での全体同期会



伊藤先生と高瀬先生を囲んでの同期会集合写真 2011年9月18日

24回生は、関東地区の同窓会の幹事期をきっかけに、関東だけではなく、関西や東北からの参加も募り、25名前後の同期会を毎年秋に行っています。毎回「今度は函館で開こう!!」と言って会を締めくくります。2010年の秋もその言葉で終わりましたが、もし函館で行うなら春先には声を掛けてないと…と思っていた矢先、3月11日の震災でした。今年は無理かな…と思って話が進まないまま7月を



鈴木 素代
(東高24回生)

迎えた頃、再びわき上がった「同期会は函館で?」の声に、たくさんの「よし、やろう!!」がありました。早速、函館メンバーに声を掛け、2ヶ月で準備し当日を迎えました。

函館では、過去に同期会が1度も開かれてなく、名簿もありませんでした。皆には、口伝えのお知らせだったり、確認だったりと苦労もありましたが、65名の仲間たち、そして、伊藤先生、高瀬先生が出席してくれました。高校卒業から37年、当時に戻って愛称や旧姓で呼び合うなど、楽しい時間を過ごすことができました。たくさんの方の参加の声を聞き、協力を感じ、「函館東高校」というブランドを改めて確認したような気持ちでした。また次回、函館での全体同期会を60歳の頃に開くことを楽しみにしています。

31回生関東同期会のご報告

平成23年9月17日、新宿「大庵」にて関東地区在住の東高31回生による同期会が開催されましたので報告させていただきます。

同期柿本君が関東青雲同窓会の幹事となり、翌年には総会・同窓会の幹事期となるため一度皆で集まろうというのが発端でした。幸いなことに4月に函館で対馬先生、昌子先生を含め83名が参加した同期会があり、それに参加した柿本君が告知し、北斗市在住の後藤剛君の協力をいただき同期の名簿を入手、関東地区の同期81名に案内を出すことができました。結果、16名の出席があり、また、欠席の方からも次回は参加したい旨のメッセージや関東青雲同窓会を初めて知ったなど今後の広がりにつながる成果を得られたと思います。

さて、当日は自己紹介から始まりましたが、何せ卒業し



菊地 美升
(東高31回生)

てすでに30年近く、現役時代顔は知っていたけど話をしたことがない者同士など、静かな始まりでしたが、杯を重ねるごとに打ち解け、二次会まで盛り上がりました。初めての試みで至らぬ点ばかりでしたが、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げるとともに、次回はもっとたくさんの参加者を集めて行いたいと思います。



同期会集合写真 2011年9月17日

【ふるさと函館】

母のこと

竹内 修
(東高30回生)

写真立てに入った一枚の写真。裏を見ると1965.MAY. HAKODATECOLORとプリントされている。写っているのは、当時の私と兄だ。大沼公園の手漕ぎボートに乗せられ、楽しそうに口を開けている。5月の大沼といえば日中でもまだ肌寒く、着ている服は厚手のフランネルのシャツと胸当て付のズボンだ。ベレーボーをかぶり、身なりを整えている。これらは、すべて母の手作りだそうだ。この頃の母は、私たち兄弟の洋服を自分好みに手作りしては着せていた。母はこの写真をとても気に入っており、写真立てに入れ、居間のサイドテーブルの上に置いている。その横には、家の前の空き地に咲いた花が飾られていた。昨年の帰省時に、このあまりにも感傷的で美しい情景を目にし、感じるがままシャッターを切った。母は、この写真を自分の傍に美しく飾り、いったい何を見ているのだろう。

母には聞いていないが、母は単に写っている楽しそうな子供の姿や当時自分が作って着せた洋服を懐かしんで見ているのではない。当時の二人のありさまや、洋服をこしらえている時の充実した気持ち、子供をボートに乗せて撮っただろう父の家族に対する優しさなど、この一枚が撮られた時に、信じて疑わなかった自分の幸せの絶頂を見ているのではないかと、私は思っている。

母は37歳の時離婚し、今、80歳になった。私が帰省から戻るため函館空港へ向かう時、母は、いつも私を家の玄関で見送ってくれる。それ以上先へは出ない。できればもっと遠くまで付き添って送りたいことがひしひしと伝わる。しかし、私はこれが女手一つで私たち兄弟を育てた母のプライドであり、子供に対する親の姿勢だと理解している。私にとって「ふるさと函館」は、母そのものなのだ。



兄と 1965年5月

【部活の思い出】

ヨット部の思い出

1年生の夏、ヨット部に入部しました。4月から11月までは、毎日、七重浜の海で練習し、他の期間は、艇の整備や雪上サッカー等でトレーニングをしていました。当時、北海道でヨット部のある高校は、函館に東高、西高、水産高の3校、小樽に潮陵高、桜陽高の2校で、計5つの高校でインターハイと国体の出場を争っていました。3年生の時、インターハイの北海道予選は小樽潮陵高校に敗れましたが、国体予選には勝ち、三重国体に出場することが出来ました。



風を受けて、いざ大海原へ



大切なヨットは自分たちで整備

奥山 智美
(東高26回生)



一番の思い出は、2年生の終わり頃、ヨット部の顧問を引き受ける先生がいなく廃部寸前になりましたが、当時クラス担任だった佐竹淳司先生に救っていただいたことです。佐竹先生は、私が在学中だけでなく、卒業後もヨット部を見て下さいました。残念ながら現在、ヨット部は廃部になっておりますが、何人もの後輩が、大学のヨット部や社会人の大会等で活躍しました。佐竹先生は、現在81歳、元気で政党活動に走り回っております。恩師と出会えた東校とヨット部に感謝します。



【同窓生紹介】

一発芸のすごいやつ

大山 久人
(東高29回生)

本日は「青雲トラベル」をご利用いただき、誠にありがとうございます。一瞬の内に高校時代に逆戻りできるタイムトリップを存分にお楽しみください。

それでは、本日のスペシャルゲスト、東高29回生の福田善亮さんをご紹介します。

高校在学中は吹奏楽部で青春を謳歌し、この時に後の奥様と出会い、赤い糸で結ばれました。東京芸術大学卒業後、新日フィル・都響を経て、現在、札幌交響楽団の首席トランペット奏者として活躍しております。クラシックに限



同窓同期、札幌で活躍中の福田善亮さん

らず交友関係は広く、私も以前某有名ジャズサックス奏者と酒席を共にさせていただいたことがあります。また「アニメまことちゃん」の物まねが得意と言う意外な一面もあり、50歳を越えた今でも、皆様のリクエストに必ずや応えてくれると思っております。

福田さんの他、各界でご活躍なさっている卒業生が大勢いらっしゃいます。当トラベルでは、毎年1月・5月・8月にイベントを開催しておりますので、ご参加の程、お待ちしております。

【我が恩師】

私の癒し系 羽田先生

中塚 智之
(東高30回生・理数科10回生)

私が東高校理数科に入学したのは昭和52年。ちょうどその年からそれまで2クラスあった理数科が1クラスになった。当然クラスメイト39名は、卒業までの3年間を同じ顔ぶれで過ごす訳だが、担任の羽田文男先生も我々と3年間おつきあいをいただいた。

羽田先生は今で言う「癒し系」。常に穏やかで冷静沈着、声を荒げるような姿は見たことがなかった。それでも度重なる遅刻と、無断で原付の免許を取得したことが発覚した時は、さすがにお叱りを受けた。とは言っても、出席簿で頭を叩かれた程度。とにかく優しい先生だった。そのような優しい先生に巡り会えたためなのか、私は理数科であるにもかかわらず「倫社・政経」が最も好きな教科だった。

おかげで大変楽しく、居心地の良い高校3年間を過ごすことができたのだが、今にして思えば卒業の時、先生にお礼を申し上げた記憶がない。誠に恩師不孝な生徒であると深く反省している。また、羽田先生とは卒業以来一度もお会いしていない。函館でお元気にお過ごしだと故郷の旧友から話を聞いている。卒業から32年経った今、関東青雲同窓会に参加し、「我が恩師」をテーマにペンを走らせる機会をいただいた。お世話になった羽田先生を改めて思い出すことができる素晴らしい機会だと感じている。3年間にわたり、私の人間形成に大きな影響を与えてくださった感謝の気持ちを、この場をお借りしてお伝えしたい。「本当にありがとうございました」

我等が「青雲19年会(昭和19年入学同期会)」

—軍國少年の集い—



小山 光
(市高2回生)

私が函館市立中学校に入学したのは、青雲台に新校舎が出来て間もない昭和19年春である。大東亜戦争が始まって3年目、皇国史観を背景とした軍国主義の教育を、ピントを喰いながら受けた世代である。

同期生の約4割は既にこの世にいないが、首都圏在住の10数名が年に3回、御徒町の池田屋に集まり、昼から酒を酌み交わしながらお互いの元気を確かめ合っている。話題は学生生活の思い出の他、十勝地方にかり出されて農作業に従事した所謂「援農」のこぼれ話や、アメリカ機動部隊の艦載機グラマンによる函館空襲の話になりがちである。既に傘寿を超えた年齢となっているが、戦時中の思い出は強烈な一齣一齣として脳裏に残っている。同期生が最後の2人になるまで、この集いを続けたいと思っている。



青雲19年会集合写真

青雲19年会 有志一同

(昭和19年入学同期会)

—軍國少年の集い—

足立 雅美千	大関 純之	太田 正幸
大原 正澄	金本 慎郎	菊池 静雄
小西 康雄	小森 良彦	高木 達夫
富岡 常夫	中島 同	沼崎 貞良
平井 忠義	松岡 久夫	横田 一郎
渡辺 晃	渡辺 宏司	

世話人 小山 光



函館東高等学校関東青雲同窓会 会則

第1章 総則

(名称)

第1条 本会は、函館東高等学校関東青雲同窓会と称する。

(事務所)

第2条 本会は、事務所を東京都品川区大崎5丁目7番14号
五反田ロイヤルハイツ105号 檜森行政事務所内に置く。

(目的)

第3条 本会は、会員相互の交流・親睦を図ることを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 懇親会、講演会その他の集会の開催
- (2) 会誌の発行
- (3) 広報活動(ホームページ作成を含む)
- (4) その他総会で認められた事業
- (5) 前(1)から(4)の事業のほか役員会で認められた事業

第2章 会員

(種別)

第5条 本会の会員は、次の2種類をもって構成する。

- (1) 正会員は、函館市立中学校、函館市立高等学校、北海道函館東高等学校、北海道函館北高等学校及び市立函館高等学校を卒業した者ならびにそれらに在籍して原則として関東に在住し、会費を納入した者とする。
- (2) 特別会員は、前項5校に勤務した教職員及び本会が推薦した者で原則として関東に在住し、会費を納入した者とする。

(会費の納入)

第6条 前条(1)(2)の会員は、第22条に定める会費を納入しなければならない。

第3章 役員及び役員会

(種類及び定数)

第7条 本会に次の役員を置く。

- | | |
|-------------|-------|
| (1) 会 長 | 1名 |
| (2) 副 会 長 | 2名～4名 |
| (3) 幹 事 長 | 1名 |
| (4) 副 幹 事 長 | 1～2名 |
| (5) 幹事期幹事 | 若干名 |
| (6) 会 計 幹 事 | 1～2名 |
| (7) 監 査 役 | 2名 |

(名誉会長等)

第8条 前条とは別に名誉会長1名、顧問、相談役及び幹事若干名を置く。
2 幹事は、各期代表とし人数が少ない時は数期束ねることができる。

(選出)

第9条 役員は総会において正会員のうちから選出する。ただし、幹事期幹事は役員会において選出する。

(職務)

- 第10条 会長は、本会を代表しその業務を総理する。
- 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、役員会においてあらかじめ定める順位に従い、これを代行する。
 - 3 幹事長は、本会の業務全般を担当処理し、幹事期幹事及び幹事の連携を掌り、細務を処理する。
 - 4 副幹事長は、幹事長を補佐し、幹事長に事故があるときは、役員会においてあらかじめ定める順位に従い、これを代行する。
 - 5 幹事期幹事は、第4条(1)に定める事業の運営・実施に当たる。
 - 6 会計幹事は、本会の資産及び会計を処理する。
 - 7 監査役は、本会の会務及び会計を監査する。
 - 8 幹事は、各期会員の代表者で、各期の連携及び事務局との連絡を掌る。
 - 9 名誉会長、顧問及び相談役は、会長の諮問に応じ意見を述べ又は、役員会に出席して意見を述べることができる。

(任期)

- 第11条 役員は任期は2年とする。ただし、幹事期幹事の任期は1年とする。
- 2 補欠又は、増員により選出された役員は、それぞれ前任者又は、現任者の残任期間とする。
 - 3 役員(幹事期幹事を除く)は、再任されることができる。
 - 4 役員は、辞任又は、任期満了後においても後任者が選出されるまでは、その職務を行わなければならない。

(解任)

第12条 役員が次の各項の一に該当する場合には、総会において出席

正会員の2分の1以上の議決に基づいて解任することができる。この場合においては、その役員に対しあらかじめ通知するとともに、決議の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) 心身の故障のため職務の執行に堪えられないと認められるとき。
- (2) 職務上の職務違反その他役員としてふさわしくない行為があると認められるとき。

(役員会)

第13条 本会に第7条に規定する役員をもって組織する役員会を置く。

- 2 役員会は、本会の事業案を決議し、役員職務の執行を監督する。
- 3 役員会は、会長(の命により幹事長)が招集する。
- 4 役員会に議長を置き、会長をもって充てる。
- 5 役員会の議事は、この会則に別段の定めがある場合を除くほか、出席した役員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 6 役員会の運営に関し、必要な事項は別に定める。

第4章 総会

(種別)

第14条 本会の総会は、通常総会と臨時総会の2種とする。

(構成)

第15条 総会は、正会員をもって構成する。

(権能)

第16条 総会は、この会則で別に定めるもののほか、本会の運営に関する重要な事項を議決する。

(開催)

第17条 通常総会は、毎年1回会計年度終了後10週間以内に開催し次の事項を審議し、決定する。

- (1) 予算及び決算に関する事項。
 - (2) 会則の変更その他本会の運営に関する重要事項。
- 2 臨時総会は、次の各項の一に該当する場合に開催する。
- (1) 会長、副会長、幹事長が必要と認め招集の請求をしたとき。
 - (2) 正会員の5分の1以上から会議の目的を記載した書面により招集の請求があったとき。

(招集)

第18条 総会は、会長が招集する。

- 2 会長は前条2項の規定による請求があったときは、その日から30日以内に臨時総会を招集しなければならない。

(議長)

第19条 総会の議長は、総会出席役員の中から選出する。

(議決)

第20条 総会の議事は、この会則に別段の定めがある場合を除くほか、出席正会員の2分の1以上をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

第5章 会計

(経費)

第21条 本会の経費は、会費、寄付金その他の収入をもってこれに充てる。

(会費の額)

第22条 会費は、次の各号に定める額とする。

- (1) 年会費は金2,000円とする。
- (2) 会費を一時に5年分を納める場合には、金8,000円とする。
- (3) 会費を一時に20年分納める場合には、金30,000円とする。

(会計年度)

第23条 本会計年度は、その年の4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。

第6章 会則の変更

(会則の変更)

第24条 この会則を変更しようとするときは、総会において出席正会員の2分の1以上をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

第7章 補則

(施行細則)

第25条 この会則の施行についての細則その他本会の運営に関し必要な事項は、役員会が定める。

毎日通った柳町

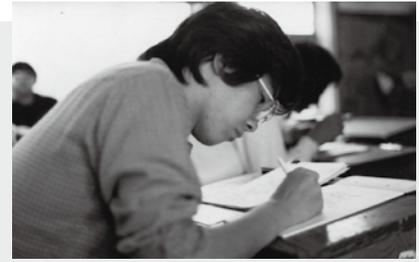


クラスのお泊まり会、クラブの合宿、お世話になりました。

おもしろマンホール発見！
捜してみて！



自転車通学も自由でした。
バイク通の強者もいましたね。



女子から借りたノート、必死に写す。



この青年たちも今やおじさん



青雲写真館

青雲写真館は、在校時代の思い出や故郷函館にまつわる「関東せいうん」だけのフォトギャラリーです。第10号発行にあたり、新しい企画ページとして登場しました。今後、関東青雲同窓会会員の皆様から、たくさんの写真をお寄せいただければと思います。



祭三熊市電



自由な合唱祭でした。歌謡曲も…。



青雲祭！前夜祭のフォークダンスです。



懐かしい！壮行式!! チアガールにも憧れました。

謎の塔は健在です！



一番多かったのは電車通学。
他校の女子に、ドキドキ？
え？ラ・サールの男子に？





愛し愛されて50年

2012年8月 戸田中央総合病院並びに
TMGは創立50周年を迎えます。

戸田中央総合病院グループ

会 長 **中 村 隆 俊** (市中2回生)

<http://www.tmg.or.jp>

〒335-0023 埼玉県戸田市本町1-22-3 Tel. 048-442-1111(代) Fax. 048-442-1115(直)

はこだて観光大使
北海道道南会副会長

沼 崎 貞 良

(市高2回生)

〒262-0025 千葉県千葉市花見川区花園4-6-11
Tel/Fax. 043-271-6411 Mobile. 090-7800-6833
E-mail. numazakisadayoshi@yahoo.co.jp

読売新聞東京本社

論説顧問 **朝 倉 敏 夫**

(東高10回生)

〒104-8243 東京都中央区銀座6-17-1
Tel. 03-3242-1111 Fax. 03-3279-4165

第二物産株式会社

代表取締役 **田 中 仁**

(東高2回生)

〒041-8633 函館市西桔梗町589-107
Tel. 0138-49-6323

関東青雲同窓会

副会長 **笠 巻 哲 昭**

(東高16回生)

〒331-0812 さいたま市北区宮原町2-120-1-701
Tel. 048-664-3902
E-mail. egkasamt@m2.pbc.ne.jp

**青雲十期の会
東京支部**

(東高10回生)

水牛食品株式会社

会 長 **保坂 好昭**
(東高9回生)

〒146-0082 東京都大田区池上8-20-15
Tel. 03-3759-9771

はこだて観光大使 関東青雲同窓会

会 長 **新山 春一**
(東高11回生)

〒141-0021 東京都品川区上大崎2-10-34-4-501
Tel. 03-3447-5399 Fax. 03-3447-5399

株式会社オリエンタル物流 (保管・発送等)

佐藤 妙子
(東高12回生)

<http://oriental-log.jp>

Tel. 048-999-2339(代) Fax. 048-999-2340
Mobile 070-6664-8215
E-mail taeko@oriental-log.jp

— 白色LEDランプ — スギデン株式会社

代表取締役 **杉本 常三郎**
(東高12回生)

〒191-0032 東京都日野市三沢3丁目37番12号
Tel. 042-593-7186 Fax. 042-593-7001
E-mail: tunesan@m8.dion.ne.jp

アドニスグループ ももの木調剤薬局

管理薬剤師 **山崎 英貴**
(東高16回生)

〒192-0904 東京都八王子市子安町4-19-10
Tel. 042-627-5855 Fax. 042-628-4545

シニア産業カウンセラー (社)日本産業カウンセラー協会)
経団連キャリア・アドバイザー (社)日本経済団体連合会)
心理相談員 (社)中央労働災害防止協会)

近藤 真理江
(東高16回生)

〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼1-40-11-1008
Tel/Fax. 045-323-2220

昭和41年卒業

東京16会

会員
一同

東京16会へのお申込は

k.himori@ap.wakwak.com

あなたの街の法律家

.....

 東京都行政書士会会員
 (登録第08081051号)

 行政書士 **檜森 兄元**

(東高16回生)

 警備指導教育責任者(1~4号)
 古物檜森事務所(古物商)
 調査檜森事務所(探偵業)

 〒141-0032 東京都品川区大崎5-7-14 五反田ロイヤルハイツ105号
 Tel. 03-3491-2977 Fax. 03-3491-2087 携帯. 090-2229-5372

みずほ証券株式会社

 取締役副社長 **長崎 秀樹**

(東高22回生)

 〒100-0004 東京都千代田区大手町一丁目五番一号
 大手町ファーストスクエア
 Tel. 03-5208-3210 Fax. 03-3516-7201

 簡易裁判所訴訟代理関係業務認定
 司法書士高橋亜明事務所

高橋 (旧姓久保) 久雄

(東高16回生)

 〒241-0821 神奈川県横浜市旭区二俣川2-22 幸栄ビル407
 Tel. 045-744-5693
 不動産登記・商業登記・抵当権抹消・相続・裁判手続

有限会社 Creatage

 代表取締役 **西田 進**

(東高20回生)

 〒332-0003 埼玉県川口市東領家4-9-3
 Tel. 048-227-3739 Fax. 048-227-3729

高橋 喜宣

(東高23回生)

関東青雲同窓会 24回生一同

竹内 清 (千歳 芳充)

(東高24回生)

 〒335-0016 埼玉県戸田市下前1-10-1-611
 E-mail. kiyoshi01@ac.auone-net.jp

関東青雲同窓会

 副会長 **藤本 智志**

(東高25回生)

 〒339-0031 埼玉県さいたま市岩槻区飯塚1333-22
 Mobile. 090-7257-1910

巡回による各種健康診断

城南クリニック

事務長 **奥山 智美** (東高26回生)

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-28-10

Tel. 03-5759-7752 E-mail: kenshininfo@ca.wakwak.com

関東青雲同窓会

昭和54年卒業
29回生・理数科9回生一同

株式会社 北海道新聞社

常務取締役 **原田 伸一**
(東高19回生)

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6
Tel. 011-221-2111

函館東高等学校
青雲同窓会

会長 **寺西 隆経**
(東高28回生)

日新産業株式会社 代表取締役
〒040-0077 函館市吉川町8-4
Tel. 0138-41-2306 Fax. 0138-41-2362

函館東高等学校
青雲同窓会
〈札幌支部〉

支部長 **佐藤 徹郎** (東高11回生)

〒060-8788 札幌市中央区南1条東1丁目
太平洋興発ビル6階 株式会社ディール企画 内
Tel. 011-281-2510

北海道函館東高等学校
東海青雲同窓会
役員・幹事一同

〒453-0014 名古屋市中区則武1-19-17
Tel/Fax. 052-825-6241
NPO法人 愛知教育支援センター内
E-mail. aesc@voice.ocn.ne.jp

関西青雲同窓会

会長 小林 正孝

(東高12回生)

事務局 〒540-0026 大阪市中央区内本町1-4-3-801
Tel. 06-6943-6494

ほだて
海鮮市場

HAKODATE FACTORY.
FRESH SEAFOOD MARKET SQUARE.

マルカツグループ 株式会社魚長食品

代表取締役 柳沢 政人

〒040-0065 北海道函館市豊川町12-12
TEL:0138-26-1811 FAX:0138-26-2618
E-mail: info@hakodate-factory.com

HP <http://www.hakodate-factory.com>

黒龍門

池袋に中華あり!

旨さは好評、価格はお手頃

一度食べにきてみて下さい。

〒171-0022 東京都豊島区南池袋1-20-1 横田ビルB1F
Tel. 03-5952-8870 Fax. 03-5952-8770

活毛がにに専門店
(ポイル) たらばがに 海産物 地方発送承ります



ほだて朝市
ヒロミ
広海水産

〒040-0063 函館市若松町9-22
Tel. 0138-22-7778 Fax. 0138-31-7500

富士製版印刷株式会社

代表取締役 小林 嘉則

(函館中部高校63回生)

〒154-0002 東京都世田谷区下馬4-17-17
Tel. 03-3411-1241
E-mail. h2b72x@bma.biglobe.ne.jp

がんばね 宮古
駒八おやじの
目黒さんまセンター



〒141-0021 東京都品川区上大崎2-13-35 KIビル2F
Tel. 03-5420-3945 <http://www.komahachi.com/>

時間制限なし、カラオケ無料、飲み放題あり

スナック マリリン

〒153-0063 東京都目黒区目黒1-4-6 弥生ビル6F
Tel. 03-3493-9602

マスター 懺悔の部屋

ブッチー武者
[懺悔の神様]

女無BAR
メンバー




<http://zangenokamichama.blog105.fc2.com/>
〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-35-5 焼肉千山閣リゾンビルB2F
Tel. 03-5273-2725 携帯 090-3081-1275



関東青雲同窓会のホームページアドレス変更のお知らせ

■ 新アドレス

<http://kantouseiun.com/>

関東青雲同窓会ホームページは2005年4月より皆様に愛読されてきました。誠にありがとうございました。これまで訪問者数は37,738人(2012年3月9日現在、管理人を除く)に達しました。実際のアクセス数はその数倍になっていると推測されます。これも皆さんにご愛顧いただいた結果であり、そのことがやりがいにもつながっています。

今年5月よりホームページを運営している契約会社の事業撤退に伴い、新規プロバイダーと契約を結び直し、すでにデータ移行が完了しました。容量が格段と増えましたので、今まで別サイトに掲載していた会報「関東せいうん」も同じサイトに収めることができました。今後とも関東青雲同窓会の情報を中心に情報発信してまいりますので、よろしくお祈りします。(管理人)

函館市のアンテナショップがオープンしました!!

函館市アンテナショップ “函館もってきました”

函館の特産品が東京で手軽に買えるようになりました。その名も「函館市アンテナショップ」が、2011年12月22日、中央区のローソン京橋駅前店内にオープン。店舗の愛称は、「函館もってきました」です。常温保存の商品の他、冷蔵冷凍品をはじめ、東京初出品を含む約80品目が店頭と並んでいます。また、特産品販売だけでなく、市の観光パンフレットも入手でき、イベント情報もわかる便利なコーナーもあります。東京駅から徒歩10分圏内、ビジネス街のオフィスビル1階に位置し、行き交う人の人気を集めています。



関東青雲同窓会 役員名簿 (2012年3月現在)

<p>会長 再任 新山 春一(東高11回生)</p> <p>副会長 再任 中川 和彦(東高15回生) 再任 笠巻 哲昭(東高16回生) 再任 藤本 智志(東高25回生) 新任 村田 学(東高29回生)</p> <p>幹事長 再任 檜森 兄元(東高16回生)</p>	<p>副幹事長 再任 高橋 喜宣(東高23回生) 新任 千歳 芳充(東高24回生)</p> <p>幹事期幹事 新任 横井 透(東高30回生) 新任 中川 孝子(東高30回生)</p> <p>会計幹事 新任 大山 久人(東高29回生)</p> <p>監査役 再任 釣谷 勝(東高21回生) 再任 奥山 智美(東高26回生)</p>	<p>名誉会長 再任 中村 隆俊(市中2回生)</p> <p>顧問 再任 朝倉 敏夫(東高10回生)</p> <p>相談役 再任 小西 康雄(市高2回生) 再任 辻 政良(東高8回生) 再任 保坂 好昭(東高9回生) 再任 川口 嵩子(東高11回生) 再任 鈴木 雅子(東高12回生) 再任 酒井 俊行(東高13回生) 新任 長崎 秀樹(東高22回生) 新任 上口 孝之(東高27回生)</p>	<p>幹事 再任 辻 政良(市中2回~東高10回生) 再任 川口 嵩子(東高11回生) 再任 鈴木 雅子(東高12回生) 再任 酒井 俊行(東高13回生) 再任 松村 俊紹(東高14回生) 再任 中川 和彦(東高15回生) 再任 山崎 英貴(東高16回生) 再任 田村 良人(東高17回生) 再任 逢見 百樹(東高18回生) 再任 広川 豊(東高19回生) 再任 上嶋 勉(東高20回生) 再任 釣谷 勝(東高21回生)</p>	<p>再任 長崎 秀樹(東高22回生) 再任 高橋 喜宣(東高23回生) 再任 千歳 芳充(東高24回生) 再任 藤本 智志(東高25回生) 新任 佐藤 司(東高26回生) 再任 駒木根 淳(東高27回生) 再任 福田 道義(東高28回生) 新任 村山 雄一(東高29回生) 新任 横井 透(東高30回生) 新任 柿本 大(東高31回生)</p>
---	--	--	---	---

第28回 関東青雲同窓会 総会・懇親会のお知らせ

来る5月26日(土)、ロイヤルパークホテルにて第28回の総会・懇親会を開催します。同ホテルは、地下鉄半蔵門線「水天宮前」駅直結、また、日本橋や東京駅からも近く、交通アクセスのとても便利なホテルです。今年の幹事期は、東高30回生(昭和55年卒)。8月の納涼会、2月の新年会では、それぞれ新たな企画を取り入れ、趣向を凝らした演出を行いました。次期総会へ向けても、着々と準備を進めております。

また、今回は伊藤義造先生が上京してご参加いただけることになりました。皆様の多数のご参加をお待ちしております。



開催概要

■日時 5月26日(土)

17:00 受け付け開始

17:45 総会

18:15 懇親会

■会場 ロイヤルパークホテル

3階 ロイヤルホール

東京都中央区日本橋蛸殻町2-1-1



〈交通〉 東京メトロ半蔵門線「水天宮前」直結
東京メトロ日比谷線
都営地下鉄浅草線「人形町」徒歩5分
東京シティアターミナルそば

編集後記

昨年の3月には、東日本大震災が起これ、福島原発の重大事故により、多くの被災者がこの1年を大変な思いで過ごしていますことを心からお見舞い申し上げます。

さて、皆様ご存知のとおり、関東青雲同窓会は、昭和58年に東高1回生を中心として始まり、正式に昭和60年に創立して以来、今年で27年を迎えます。

その間、会報も平成2年(発会5年目)の創刊号から今号で10号となりました。総会・納涼会・新年会は、毎年滞りなく開催し、皆様のお元気な姿を拝見しておりますが、会報は前号の発行から既に4年も経ってしまい、首を長くして待っていた会員の方々には大変ご心配をおかけしました事を深くお詫び申し上げます。

今号から若手の会員が中心となって会報の編集に携わり、新しい企画を盛りだくさん掲載してみました。函館東高等学校の名称が消えて5年になりますが、しっかりと「青雲魂」は継承されているものと思います。今後も会員の皆様のご指導をいただきながら、充実した内容の会報を発行していこうと思っていますので、お力添えの程宜しくお願いいたします。

最後になりましたが、今号の発行に際し、ご協賛くださいました会員及び関係者の皆様に深く感謝致します。ありがとうございました。

千歳 芳充(東高24回生)